

2018年3月期 第1四半期決算説明資料

2017年7月14日



ゲンダイエージェンシー株式会社

GENDAI AGENCY Inc.

P3 第1四半期 損益計算書(連結)

P4 事業の種類別セグメント

【広告事業】

P5 第1四半期 損益計算書

P6 四半期売上高の推移

P7 品目別売上高の推移

【不動産事業】

P8 第1四半期 損益計算書

P9 第1四半期 連結貸借対照表

P10 通期予想進捗状況

(単位：百万円)

	当1Q累計期間	構成比	前1Q累計期間	構成比	前年同期比
売上高	3,522	100.0%	4,054	100.0%	86.9%
営業利益	244	7.0%	323	8.0%	75.6%
経常利益	244	6.9%	294	7.3%	82.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	153	4.4%	194	4.8%	79.1%

○ パチンコホール業界は、引き続き収益面で厳しい状況が続いています。昨今の依存症対策や射幸性抑制を目的とした業界規制の強化の流れを受け、新規出店や新遊技機の積極購入といった投資意欲は、過去と比較しても著しく減退しつつあることがうかがえます

○ 当社グループでは主力の広告事業において、収益構造の転換を図るべく、インターネットメディアの拡販や、異業種向けのプリンティング事業の営業強化により収益の底上げに努めました。また、併行して収益性改善のための固定費抑制にも取り組んで参りました

○ 結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,522百万円(前年同期比13.1%減)、営業利益は244百万円(同24.4%減)、経常利益は244百万円(同17.1%減)、親会社に帰属する四半期純利益は153百万円(同20.9%減)となりました

□ 当第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	広告事業	不動産事業	その他	調整額	連結
売上高	3,482	20	19		3,522
セグメント利益	319	11	▲3	▲82	244

□ 前年同期比

(単位：百万円)

	広告事業	不動産事業	その他	調整額	連結
売上高	▲512	▲16	▲5	0	▲532
セグメント利益	▲77	▲6	▲2	6	▲79

○ パチンコホール広告および不動産事業が前年同期を下回ったことにより、連結ベースの売上高で532百万円減となり、全社調整額の削減や固定費の削減を進めたものの、セグメント利益は79百万円減となりました

(単位：百万円)

広告事業	当1Q累計期間	前1Q累計期間	前年同期比
売上高	3,482	3,994	87.2%
営業費用	3,163	3,598	87.9%
セグメント利益	319	396	80.5%

外部環境>

- パチンコホール広告市場は、パチンコホール企業における収益性の悪化を要因とする広告費の削減が継続
- 新台入替の頻度減少による告知需要の減少もあり、広告需要は著しく低迷する状況

当社の取り組み>

- 自社メディアである「パチ7」やDSP広告「パチアド」を中心としたインターネットメディアの拡販
- 異業種向けプリンティング事業の営業強化を推進
- 受注プロセスの見直しによる合理化・省力化を進め、固定費の抑制に注力

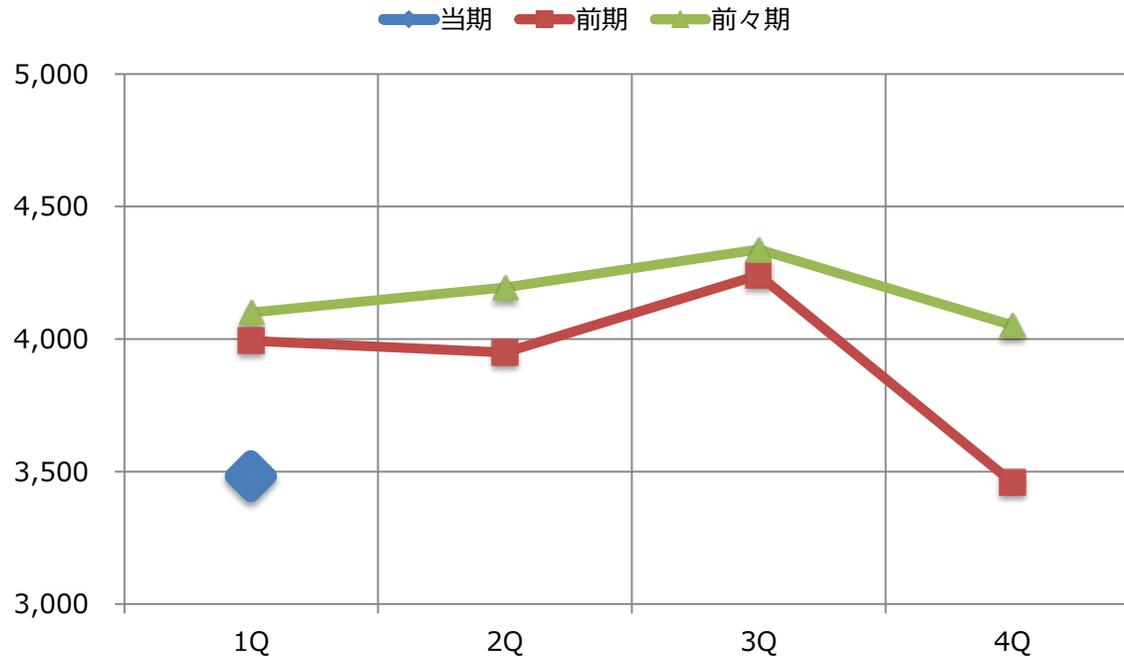
結果>

- 当社の取り組みは一定の効果あげたものの、急激な需要の減少の影響を相殺するには至らず、売上高は3,482百万円(前年同期比12.8%減)、セグメント利益は319百万円(同19.5%減)となりました

四半期売上高の推移(広告事業)

(単位：百万円)

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期計
当期	3,482	-	-	-	3,482
前期	3,994	3,949	4,241	3,459	15,643
前々期	4,100	4,194	4,338	4,052	16,684



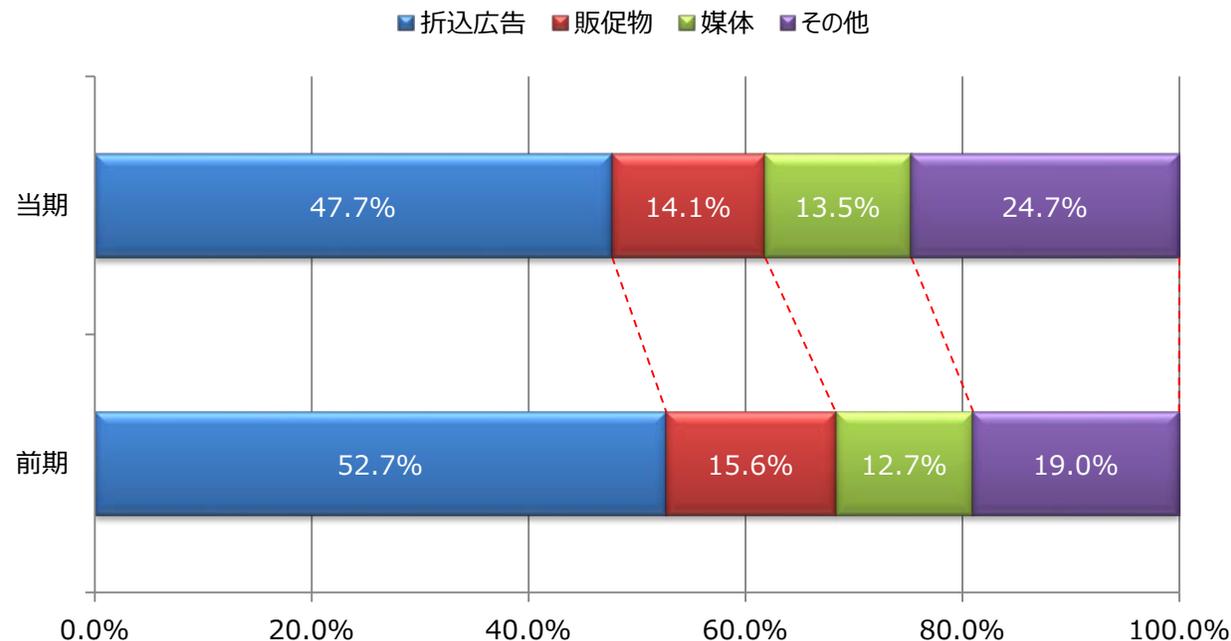
○当1Qにおける広告事業の売上高は前年同期に比べ、512百万円減少しました

○新台入替の頻度減少による広告需要の減少や、広告予算の削減、更にはゴールデンウィーク前の新規出店減少による大型の告知需要が極端に減少したこと等が影響しました

品目別売上高の推移(広告事業)

(単位：百万円)

	当期	構成比	前期	構成比	前年同期比
折込広告	1,660	47.7%	2,104	52.7%	78.9%
販促物	491	14.1%	625	15.6%	78.6%
媒体	469	13.5%	506	12.7%	92.7%
その他	861	24.7%	758	19.0%	113.5%
	3,482	100.0%	3,994	100.0%	87.2%



○ 主として入替告知需要の減少により、パチンコ広告事業の主力メディアである「折込広告」が、前年同期比で444百万円減少した結果、構成比も5ポイント低下しました

○ 「その他」については、インターネット広告の拡販により、売上高・構成比ともに増加しました

(単位：百万円)

不動産事業	当期	前期	前年同期比
売上高	20	36	56.0%
営業費用	9	19	47.4%
セグメント利益	11	17	67.8%

○ 本年2月に新規取得した千葉県柏市の土地の賃貸案件に加えて、賃貸物件仲介案件(7百万円)を成約いたしました

○その結果、不動産事業の売上高は20百万円(前年同期比44.0%減)、セグメント利益は11百万円(同32.2%減)となりました

第1四半期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期末 (A)	当1Q末 (B)	差額 (B) - (A)
現金及び預金	4,374	4,103	▲270
受取手形・売掛金	1,870	1,675	▲194
その他流動資産	515	203	▲312
有形固定資産	681	897	216
無形固定資産	107	100	▲7
投資その他資産	781	862	81
資産合計	8,330	7,843	▲487
支払手形・買掛金	1,132	956	▲175
短期借入金（一年内返済予定の長期借入金を含む）	540	340	▲200
未払法人税等	239	45	▲194
その他流動負債	188	247	59
長期借入金	760	725	▲35
その他固定負債	33	32	▲1
負債合計	2,893	2,347	▲546
株主資本	5,387	5,345	▲42
その他	49	149	100
純資産合計	5,436	5,495	59
負債・純資産合計	8,330	7,843	▲487

①納税、配当等による現金及び預金の減少

②取引高の減少による売掛債権の減少

③取引高の減少による仕入債務の減少

④借入金の返済による減少

⑤四半期純利益+153百万円、配当△195百万円

⑥連結子会社への非支配株主による増資+112百万円

(単位：百万円)

	2018年3月期 1Q実績	2018年3月期 通期予想	進捗率
売上高	3,522	15,600	22.6%
営業利益	244	1,100	22.2%
経常利益	244	1,100	22.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	153	720	21.3%

- 当第1四半期連結累計期間における連結業績は、概ね当初計画どおり推移していることから、通期の業績予想については前回発表予想を修正しておりません

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の情報に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・IR窓口 管理部 Tel.03-5358-3334